

アジアの新しい風 創立20周年記念プレ・イベント

2022年度 新春交流会 交流校対抗コンテスト課題

平和を希求する日本の民の心

日時 2023年2月19日（日）午後2時～

- 1・君死にたもうことなかれ
与謝野 晶子 (歌人) 1904年
- 2・日本国憲法 前文後半 1946年
- 3・私が一番きれいだったとき
茨木 のりこ (詩人) 1958年
- 4・アジアの新しい風テーマソング
高橋 雪子 (アジ風会員) 2003年
- 5・平和への誓い 2022年
バルバラ・アレックス (広島市小6生)
山崎 鈴 (広島市小6生)

君死にたもうことなかれ

与謝野晶子 (歌人)

ああ、おとうとよ、君を泣く、
君死にたもうことなかれ、
末に生まれし君なれば
親の情けはまさりしも、
親は刃(やいば)をにぎらせて
人を殺せと教えしや
二十四までを育てしや
堺の街のあきびとの
旧家をほこるあるじにて
親の名を継ぐ君なれば、
君死にたもうことなかれ、
旅順の城はほろぶとも、
ほろびずとも、何事ぞ、
君は知らじな、あきびとの
家のおきてに無かりけり。
君死にたもうことなかれ、
すめらみことは、戦いに
おおみづからは出でませね、
かたみに人の血を流し、

死ぬるを人のほまれとは、
大みこころの深ければ
もとよりいかでおぼされん。

ああおとうとよ、戦いに、
君死にたもうことなかれ、
すぎにし秋を父ぎみに
おくれたまえる母ぎみは、
なげきの中に、いたましく
わが子を召され、家を守り
安しと聞ける大御代(おおみよ)も
母のしら髪はまさりぬる。

暖簾(のれん)のかげに伏して泣く
あえかにわかき新妻(にいずま)を、
君わすれるや、思えるや、
十月(とつき)も添わでわかれたる
少女(おとめ)ごころを思いみよ、
この世ひとりの君ならで、
ああ、また誰を頼むべき、
君死にたもうことなかれ。

日本国憲法 前文後半

日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の
関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであ
つて、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼し
て、われらの安全と生存を保持しようと決意した。

われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と
偏狭を地上から永遠に除去しようと努めてゐる国
際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ。
われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠
乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有す
ることを確認する。

われらは、いづれの国家も、自国のことのみに
専念して他国を無視してはならないのであつて、
政治道徳の法則は、普遍的なものであり、この法
則に従ふことは、自国の主権を維持し、他国と対
等関係に立たうとする各国の責務であると信ず
る。

日本国民は、国家の名誉にかけ、全力をあげて
この崇高な理想と目的を達成することを誓ふ。

わたしが

一番きれいだったとき

茨木のりこ (詩人)

わたしが一番きれいだったとき
街々はがらがら崩れていつて
とんでもないところから
青空なんか見えたりした

わたしが一番きれいだったとき
まわりの人達がたくさん死んだ
工場で 海で 名もない島で
わたしはおしゃれのきつかけを落と
てしまった

わたしが一番きれいだったとき
だれもやさしい贈り物を捧げてはくれ
なかつた
男たちは拳手の礼しか知らなくて
きれいな眼差しだけを残り皆発つて
いった

わたしが一番きれいだったとき
わたしの頭はからっぽで

わたしの心はかたくなで
手足ばかりが栗色に光った

わたしが一番きれいだったとき
わたしの国は戦争で負けた
そんな馬鹿なことであるものか
ブラウスの腕をまくり
卑屈な町をのし歩いた

わたしが一番きれいだったとき
ラジオからはジャズが溢れた
禁煙を破ったときのようにくらくらし
ながら

わたしは異国の甘い音楽をむさぼった
わたしが一番きれいだったとき
わたしはとでもふしあわせ
わたしはとでもとんちんかん
わたしはめっぽうさびしかった

だから決めた できれば長生きするこ
とに
年とってから凄く美しい絵を描いた
フランスのルオー爺さんのように、ね

アジアの新しい風テーマソング

高橋雪子 (アジ風会員)

風は見えない でも風は揺らす みどりの木々を
風は見えない でも風は運ぶ 花のにおいを
優しい風が 言葉を伝え 理解を深め 心をつなぐ
手に手をとって 歩こう前へ 新しい風に乗って

風は見えない でも風は揺らす わたしの心を
風は見えない でも風は運ぶ あなたの願いを
明るい風が 海を渡り山を越えて アジアをつなぐ
手に手をとって 進もう前へ 新しい風に乗って

風は見えない でも風は揺らす みんなの心を
風は見えない でも風は運ぶ みんなの願いを
爽やかな風が 森を吹き抜け 砂漠を越えて 世界
をつなぐ
手に手をとって 広げよう平和を 新しい風に乗っ
て

平和への誓い

バルバラ・アレックス
山崎 鈴

(広島市小6生)
(広島市小6生)

あなたにとって、大切な人は誰ですか。
家族、友だち、先生。
私たちには、大切な人がたくさんいます。
大切な人と一緒に過ごす。笑い合う。
そんな当たり前の日常はとても幸せです。

昭和20年(1945年)8月6日 午前8時15分。
道に転がる死体。
死体で埋め尽くされた川。
「水をくれ。」「水をください。」という声。
大切な人を一瞬で亡くし、当たり前の日常や未来が突然奪われました。

あれから77年経ちました。
今この瞬間も、日常を奪われている人たちが世界にはいます。
戦争は、昔のことではないのです。

自分が優位に立ち、自分の考えを押し通すこと、それは、強さとは言えません。
本当の強さとは、違いを認め、相手を受け入れること、思いやりの心を持ち、相手を理解しようとする事です。
本当の強さをもてば、戦争は起こらないはずです。

過去に起こったことを変えることはできません。
しかし、未来は創ることができます。
悲しみを受け止め、立ち上がった被爆者は、私たちのために、平和な広島を創ってくれました。

今度は私たちの番です。
被爆者の声を聞き、思いを想像すること。
その思いをたくさんの人に伝えること。
そして、自分も周りの人も大切に、互いに助け合うこと。
世界中の人の目に、平和な景色が映し出される未来を創るため、私たちは、行動していくことを誓います。